

ちょっといい話



先日、子育てママから「次の4月から育児休業明けで、保育園に入所申し込みをしている。だけど、家族には糖尿病を抱えている者もいて、コロナ感染は絶対に防がなくてはいけない。また、小さい子どもでも感染している報道もあり、いま保育所入所をさせることは怖くてたまらない。だけど、仕事を辞めたら暮らしていけないし、何とかしてもらえないか？」という、コロナから家族の命と暮らしを守るための必死

の相談が寄せられました。そこで、市の担当課に「コロナ特例として対応できないか？」とくり返し相談してきました。そして、市は「緊急事態宣言が発令されているコロナ禍に配慮した対応を」ということで、コロナの中で不安な保護者に寄り添い柔軟に対応してくれ、相談者も本当に安心されました。

ネットやのこので、コロナの中で悩んでいる子育て世帯が溢れています。1人の小さな声から、同じように悩みながら声を上げられない方も含め救われる結果につながったことに大きな喜びとともに、小さな声にも心を寄せることの大切さを改めて実感しました。



2月議会に提出した意見書を紹介します。

日本共産党は、「後期高齢者の医療費窓口負担割合の引き上げを行わないことを求める意見書」「日本政府に核兵器禁止条約の参加・調印・批准を求める意見書」を含め3本の意見書を提出しました。

今夏の東京五輪を中止し、コロナ収束に全力を求める意見書

新型コロナウイルス感染が世界的に拡大し、感染力のより強い変異型も発生している。また、コロナに感染し自宅で療養していたり、入院を待っている間に亡くなる方が多数出ているなど、医療体制の逼迫は、五輪の延期を決めたとき以上に深刻になっている。

そうした中で、国民世論はどの調査でも、東京2020オリンピック・パラリンピック大会は「中止・再延期をすべき」との声が約8割にもなり、「開催すべき」は1割台となっている。これは、「コロナ対策に集中してほしい」「今は命を優先すべき」という国民の切実な声の反映である。

今夏の五輪をめぐる第一に、ワクチン接種は一部の国で始まったものの、WHOは今年中に世界全体での集団免疫の達成は「あり得ない」と発言しており、ワクチンを頼りに開催を展望することは到底できない。第二に、感染状況の違いによる各国の練習環境や、ワクチン接種での先進国と途上国の格差があり、「アスリート・ファースト」の立場からも問題がある。第三に、大会には当初予定の1万人の医療従事者に加え、コロナ対策の体制も必要となりこれだけの医療スタッフを五輪に振り向けることは非現実的である。

これらの問題点を考慮するならば、今年夏の五輪開催は中止し、日本と世界のあらゆる英知をコロナ収束に集中すべきであると考え、以下の点を求める。

記

一、政府として「開催ありき」の立場を改め、今夏の五輪中止を決断し、新型コロナウイルス感染拡大を完全に抑え込むために、東京都や大会組織委員会、IOCやJOCなどと開催の是非について協議を開始すること。

2月議会の日程(予定)

月	日	曜	議会日程
2	24	水	本会議(上程)
3	4	木	本会議(一般質問)
	5	金	本会議(一般質問)
	8	月	本会議(一般質問)
	10	火	総務文教常任委員会 (予算以外)
	11	水	総務文教常任委員会 (一般会計予算)
	12	金	総務文教常任委員会 (一般会計予算)
	15	月	総務文教常任委員会 (一般会計予算)
	16	火	総務文教常任委員会 (一般会計予算)
	18	木	都市環境福祉常任委員会
26	金	本会議 (委員長報告・採決)	



ぜひ傍聴にお越し下さい